



認定NPO法人 プレゼントガーデントゥー

Present Garden to

みんなの手

- ◆発行：認定 NPO 法人 Present Garden to  
〒655-0043 神戸市垂水区南多聞台 1-5-11  
TEL：078-785-1516 FAX：078-785-1539  
E-mail：present-g@hi-net.zaq.ne.jp  
H P：http://www.present-g.com
- ◆代表者：理事長 高野 喜恵

## 並んで一歩

理事長 高野喜恵

今春は春分の日前後から小さな花びらの彼岸桜を楽しみながら微妙な温度変化をメンバーと共に感じつつ新年度を迎えました。プレゼント・ガーデンの庭は花々で溢れています。昨年度もトータル 98% というメンバーの年間出勤率、5 人が皆勤でした。

昨年 11 月に第 9 回浜松国際ピアノコンクールが行われ、彗星のごとく現れた垂水区出身の若いピアニストに不思議とも言える大きな出会いをいたしました。その若者の演奏が私の閉ざした心を開き「もう一度ピアノを聴く愉しみ」に足を踏み出させてくれたのです。



おそろしい程のテクニック、しかしその技術を越えた世界、音楽による慰めの世界、至福の時と心躍る思いを私はこの歳になって初めて体験いたしました。

彼はこの道を選んで良いものか孤独と空しさに追われ、ステージでの華やかな輝きの陰で深い苦悩と戦っておられる様子でした。しかし、この苦悩こそが聞く私どもを癒し慰めてくれるのでしょう。

さて、プレゼント・ガーデンもアンクルンの演奏会を一年後に予定しています。曲目も決まり、今からの一年が勝負です。今回は特に丹壱一樹氏率いるオーケストラ「シニアンサンブル神戸」の方々に助けていただき全 25 曲の様々な曲を演奏いたします。なかでもラフマニノフピアノ協奏曲第 2 番 1 楽章はオーケストラとピアノの中にお邪魔虫のように入って共にステージに立ち演奏させていただきます。

ピアノコンツェルトの中に共にメンバーも存在することが許される・・・絶対にあり得ないステージです。他の楽器では不可能なこと、また障害を持つメンバーでは不可能なこと、音楽の技術を持たない者には不可能なことなのです。

しかし、丹壱先生、ピアニストの加藤先生が「やっただけよう、助けてあげよう！！」と協力して下さって初めて可能となりました。さて、どんなステージに、どんな演奏になるのでしょうか。



世界を目指す新鋭の若きピアニストも私達プレゼント・ガーデンのメンバーも前に向かって一歩、また一歩です。自分の歩幅で進む時、信じられない新しい世界が広がっていくことを願いつつ、恐れ悩み苦しみながら前へ前へ進んで参ります。

20 年前に私に与えられた園芸療法の道、全くお手本も無く、モデルもなく、方法も分からずただただメンバーの心を明るくし、自信を持ち、自分はこれでいいんだと認め、友と交わるためにと懸命に進めてきたことが、ふと振り返ってみるとプレゼント・ガーデンのプログラムとなり、彼らによって社会へと貢献できる活動へと変化成長しているように思います。

人と比べる人生ではないのです。自分の歩幅で（自分を認める）一歩一歩進んでいく努力と勇気、そのことで出来上がる何かが人を喜ばせ感動させる「貢献」となるのでしょうか。





月に一度、斎藤コーチと一緒に水泳指導で関わらせて頂いています。

月に一度ですが、顔を見ると元気に駆け寄ってあいさつを下される皆さんに、自然と笑顔になって元気もらっています。

水の中で体は正直です。精神的・肉体的に何かあると動きや硬さにでてきます。「水を通してリセットできる」そんな時間であって欲しいと願っています。



プレゼント・ガーデンの皆さんは、

コーチ 織田幸代

元気いっぱい勢いで泳ぐ人、指導の声も関係なくマイペースで泳ぐ人、意識しながら丁寧に泳ぐ人、体力が少し落ちてきて疲れてきても最後まで諦めない人…泳ぎにその方の個性がでて、とても面白いものです。隙があれば省エネ泳ぎに切り替える人には、水中で足をついて休憩しないように足をけり上げ(笑)、水面下のバトルもしばしば!?

皆さんのできる力を信じて、「天使 時々 鬼 コーチ」でこれからも皆さんの笑顔と共にがんばっていきたくと思っています。



保護者 高橋 隆子



賢司は昨年の3月に支援学校を卒業してすぐプレゼント・ガーデンに入所させて頂きました。少しずつプレゼント・ガーデンでの生活にも慣れてきたのかなと思われたのも束の間、何やらいろいろと問題が起きている様でした。その中には経験不足で身についていないことがあったり、ルールを守るといふ姿勢が欠けていたり、私との関わりにおいて何か足りないと思われることがあったりしました。

大切なのは、「賢司」という一人の人格を見ること、我が子の心にぐいぐい入り、こちらに引き寄せることだと真剣な眼差しで語って下さ

った時、その言葉は私の中にスーッと入り、前に一歩踏み出す力となってくれた気がしました。日々の課題は尽きることがありませんが、どうしたら良いのかとその都度向き合って、少しでも前に進めたら嬉しく思います。賢司はプレゼント・ガーデンで「感謝します」や「しあわせ」といった色々と素敵な言葉に出会わせて頂いたり、大好きなアンクルンの練習で覚えた新しいメロディーを家でも口ずさんだりしています。母子ともに少しずつ成長させて頂いた一年です。



## 私の涙

2004年 in 富士山

足立 友紀



ガイドさんにおんぶされて先に山小屋に降りてきました。3時間待っていましたが、みんなが下りて来ません。心配になり、寂しくなりました。山小屋の外ですっと待っていました。まわりはまっくらでした。やっとみんなが下りて来たのでスタッフさんに飛びついて行きました。

メンバーの一人がぶーたれてなかなか動かなかったのでみんなが遅くなりました。

「心配した?寂しかった?つらかった?一人で外におったん?寒い中、山小屋におる人たちと友達になれなかったん?」とスタッフさんは言いました。

次の日はすべりだいのようにして富士山を下りていきました。その後、ひろくんが

「早くお母さんとこに帰ろう」と何回も言いました。6合目でやっとジュースが飲めました。それからバスのところまで下りて来て感動して泣きました。自分でこの富士山に登ったと思ったからです。

スタッフさんが「友紀さんどうした?どこか痛いところあるの?」と聞きました。

「感動して泣いてるの」と答えました。タオルに大粒の涙が落ちました。

「登ったぞー！」

